

新潟に水俣病の資料

熊大、奇病究明に送る

水俣病に似た有機水銀中毒が新潟県でも発生、七人の患者が出ていたが、熊本大学医学部では「この研究の一助としてほしい」とこれまで得た研究資料を新潟大学に送ることになった。

これは十七日開いた熊大医学部教授会で新潟出身の玉井達二教授「整形外科」が発言、金教授の同意を得て決定したもので、さっそく水俣病研究班長の忽那将彦教授「解剖学」が中心となり提供資料の作成にとりかかることになった。

これまで得た同研究班の研究資料は膨大なものになっているため、十八日午前、班員を集めて現段階ではどの程度の資料が必要なのか検討するが、忽那教授の話によるとかなりくわしい資料の提供にならうと云っている。

新潟大学では有機水銀中毒が発生して以来、この中毒症状の研究にあたっている脳神経、外、内科から直接熊大内科病理に資料を求めてきているが、新潟での中毒患者が水俣病に間違いないという結

果が出ているため学部としての資料提供となったもの。同学部では新潟大での研究が進むにつれ、その段階での資料を送ることにしている。なお一回目の資料は二十一日ごろ送る予定。

▽六反田熊大医学部長の話 水俣病は医学界では大きな問題となっており、新潟大学でもおそろしく熊大からの文献がそろっているのだろう。しかし文献の中には欠けている資料も熊大には豊富にあることだし、新潟大での研究に少しでもプラスになるだろうと思つて提供することになった。